令和６年６月１日発行

かみすながわ

議会だより

令和6年　第1回定例会

第２８号

発　行　　上砂川町議会　　編　集　　議会活性化特別委員会
上砂川町議会事務局　　電話　０１２５－６２－２８８０

掲　載　内　容

＊主な議会政務報告について　２Ｐ
＊町政執行方針質問と答弁内容について　４Ｐ
＊教育行政執行方針質問と答弁内容について　６Ｐ
＊一般質問と答弁内容（要旨）について　７Ｐ
＊行政常任委員会報告について　10Ｐ
＊町内行事への参加報告について　10Ｐ

主な議会政務報告について

年月日		会　議　行　事　名	場　所	出　席　者
R6 3	7～18	第１回上砂川町議会定例会	議事堂	全議員
	8	議会運営委員会	役場	全委員・議長
		滝川駐屯地修親会・自衛隊協力会合同送別会	滝川市	議長
	11	行政常任委員会	役場	全委員・議長
	12	上砂川中学校卒業証書授与式	上砂川中学校	議長・副議長 議会運営委員長 行政常任委員長
	14	予算特別委員会	議事堂	全委員・議長
	18	滝川警察署長退任挨拶	役場	議長
	19	中央小学校卒業証書授与式	中央小学校	議長・副議長 議会運営委員長 行政常任委員長
	22	地域おこし協力隊・集落支援員活動報告会	役場	副議長他５名
	27	第１回砂川地区保健衛生組合議会臨時会	砂川市	越前議員
		第１回砂川地区広域消防組合議会臨時会	砂川市	越前議員
4	1	人事異動等発令式	役場	副議長
	8	中央小学校入学式	中央小学校	議長 議会運営委員 行政常任委員長
		上砂川中学校入学式	上砂川中学校	議長 議会運営委員長
		滝川警察署長着任挨拶	役場	議長
	16	浦臼町長当選報告会	浦臼町	議長
	18	上砂川町交通安全推進委員会常任委員会並びに総会	役場	議長
	24	上砂川消費者協会定期総会	町民センター	議長
	26	第２回上砂川町議会臨時会	議事堂	全議員
		全員協議会	議事堂	全議員
5	1	第９５回上砂川地区メーデー集会	産業活性化センター	議長
	7	空知中部広域連合議会第１回臨時会	奈井江町	議長・小澤議員

		奈井江町役場新庁舎開庁式	奈井江町	議長
	8	第２回砂川地区広域消防組合議会臨時会	砂川市	越前議員
	10	中空知町議会議長連絡協議会第１回定期総会及び中空知５町「町長・議長懇談会」	町内	議長
	13	行政常任委員会所管事務調査	(株）ロボットシステムズ マイクログラス（株）	全委員・議長
	21	上砂川町老人クラブ連合会総会	役場	議長
	21～22	町村議会議長・副議長研修会	東京都	副議長
	30	第７１回上砂川商工会議所議員通常総会	町内	議長

令和６年第２回上砂川町議会定例会を傍聴しませんか？

本会議は、簡単な手続きで自由に傍聴することができます。町議会の活動などを知るよい機会ですので、ぜひ傍聴にお越しください。
※日程は変更となることがあります。
〇議 会 日 程：６月１９日（水）～・２１日（金）
〇傍聴可能日：１９日・２１日

町政執行方針質問
（質問者順）

議席番号3番
笹木　笑子議員

質問要旨

第四　魅力と活力があふれるまち1・活力ある商工業の振興「事業継承支援事業について」

高齢により事業の継承が困難となり、廃業、閉店することで、町内での日常の買い物が困難となる「買い物弱者」対策としても位置付けられている事業でもあります。

小売店にかかわらず、ライフスタイルに不可欠な理・美容業の事業所などの廃業も考えられ、生活習慣の維持も困難が予想されます。また、シャッター通りとなりますと地域の活力がなくなりより衰退し、執行方針に掲げられています「魅力と活力があふれるまち」とは言い難いと考えます。

早急な対策が大切と考え2点について伺います。

① 現在の進捗状況について

② 一案ですが、事業承継期間中の候補者に対して生活費・住居費の助成をすることでマッチングが成立したという自治体もあると聞きます。今後の本町としての具体的な方策として実施可能か、また、他に考えがあれば伺いたい

答弁要旨

商工会議所等と連携して事業継承支援を第7期総合計画後期基本計画に基づき令和4年度から実施することとしております。

実施事業につきましては、北海道が主催する事業継承セミナーの情報提供や町内でのセミナーの開催、さらには後継者不在で事業継承の意欲のある事業と創業意欲のある人材とのマッチングを目的に北海道後継者人材バンクの活用を予定しておりましたが、ご承知のとおり新型コロナ禍によりセミナー等の開催は行えませんでした。

また、事業実施に先立ち令和3年度及び4年度に事業の意向を把握し、新たな事業を展開に資することを目的に事業継承支援に係る意向調査アンケートを実施したところです。このアンケート結果といたしましては、まず、回答率が令和3年度が18％114事業者、令和4年度では42％411事業者と統計サンプルとしては厳しい回答率であり、さらに、事業継承については回答の85％が「考えていない」、「検討中」、「継承者がいない」との回答でありました。一方、情報提供や相談窓口を希望するとの回答も20％程ありましたが、窓口となる商工会議所への紹介、相談はなく、町への相談等もございませんでした。しかしながら、個人事業所いわゆる個店のみならず法人格を有する事業も人口減少と比例するように減少しており、経済センサスでは昭和62年の炭鉱閉山時と令和3年度を比較しますと74％減少し、98事業所となっており憂慮すべき状況であると認識しております。

このことから、事業継承支援制度は継続すると同時に本町では創業支援制度もあり、M&Aとなりますが、この制度を活用して飲食店が創業しておりますので、これらの制度をより効果的に活用できるよう、商工会議所とも連携協議し、交流会の開催や意見収集の場を設定し、どのようなニーズがあるのかを確認し、改めて制度設計を検討してまいりたいと考えております。

議席番号2番
藏根　高史議員

質問要旨
乗り合いタクシーの運行と新しい地域交通の構築について

本町においては路線バスの減便に対応し、いち早く乗り合いタクシーを運行させ住民の移動手段はある程度確保されてはおりますが、新たなダイヤ改正で土日祝日運行がさらに減便となり、土日の通勤や移動に不便を感じている方が多数おられます。そういった方々からは現在乗り合いタクシーを土曜、日曜も運行していただきたいとの声を多くいただいております。

快適で住みよい環境づくりを進めるにあたり、切れ目ない交通手段の維持確保を図るためには現行乗り合いタクシーの土日運行が必要であると考えますがご見解をお伺いいたします。

本年ライドシェアが一部解禁となります。しかしその内情においては現在の本町にあてはまるものではありません。

一方、道内では地域住民の方の自家用自動車を活用した新たな共助の仕組みによる独自のライドシェアを展開しているところもあります。

本町においてもこういったライドシェアを参考に新たな交通手段を構築してはどうかと考えますが、ご見解をお伺いいたします。

答弁要旨

通院や買い物等の日常生活に必要な公共交通の確保対策として、平成31年2月から町内を運行する乗り合いタクシーの運行を開始し、令和4年9月末の中央バス上砂川線の廃止にともない、令和4年10月より砂川市まで運行する乗り合いタクシー（砂川便）の運行を開始、町民の生活交通を確保しておりました。しかしながら、中央バスから利用者の減少及び乗務員不足との理由で、昨年12月には土日祝日便が減便となっており、町民の交通手段の維持確保のための代替交通を検討する必要があることから、町政執行方針でも述べさせていただいたところであります。

1点目のご質問、「乗り合いタクシーの土日運行」につきましては、全国的に各種乗務員・運転手不足が深刻な中、タクシー業界も例外ではなく更に2024年問題も加わり業務委託業者においても乗務員不足が顕著であることから、全員協議会や住民説明会でも説明しておりますとおり土日祝日の運行は難しい状況にあります。

次に2点目のご質問、ライドシェアについてですが、本年4月に解禁となる日本版ライドシェアは、都市部や観光地のタクシー不足を解消するため導入するもので二種運転免許を持たない一般ドライバーが自家用車を使い有償で客を運ぶ制度で、国はタクシーとの競合を避けるためタクシー配車アプリのデータを基に対象地域を絞り込む方針でありますが、道内ではアプリの利用が都市部に限られており、更には安全性確保の観点から車両運行の管理や運転手への教育、車両整備をタクシー会社に担わせることを想定しているため導入は難しいと思われます。

事例として掲げられた、中頓別町などの独自のライドシェアを参考とした新たな交通手段の構築につきましては、中頓別町では、有志による町民ボランティアがドライバーとなり自分の車に乗せてくれるサービスでスマートフォンなどにインストールしたウーバーのアプリから予約できるものでありますが、中頓別町にはタクシー会社があり運用には苦慮していると聞いております。

本町といたしましては、現在、中央バスやタクシーの運行、更には、乗合タクシーも運行しておりますが、今後も高齢化社会が続く中、新たな住民の交通手

段として、バス路線へ与える影響や運行事業者との調整を行いながらコミュニティバス等の自家用有償旅客運行制度の導入について慎重に検討・判断するとともに、中空知9市町で構成される中空知地域公共交通活性化協議会の広域的な対応や、国や道に対し公共交通の確保に向けた支援要請を行うなど、引き続き住民の交通手段の維持確保に努めてまいりますことを申し上げ、答弁とさせていただきます。

教育行政執行方針質問（質問者順）

議席番号3番
笹木　笑子議員

質問要旨

1．学校教育の推進
（1）学習指導の充実
「教科担任制と学校法人との包括連携」について

今年度より学級担任制から教科担任制が導入されます。中でも英語については、学校法人との包括連携による派遣　教員が教えると記されています。教科担任制についてはメリットだけではなく課題も考えられますが、子どもたちにとって授業の充実が、授業を好きになることに繋がると期待する所です。

田中学園は世界に目を向けた学びを目標としている学校と聞いています。語学の習得だけではなく外国文化の吸収にも大きく役立ち、グローバル感覚の獲得に適し、更に英語を学ぶ意欲に繋がると考え、次の3点について伺います。

①学校法人との包括連携は人材派遣にとどまらず、本町の学校の理念・目標など運営に繁栄、発展させる連携を考えているのか。
②児童の相互交流・教員の人事交流は考えているのか
③教科担任制については教員の定期人事異動等もあるが、専科教員の継続的配置は可能か。

答弁要旨

小学校での外国語教育の充実や単式学級維持のため、学校法人田中学園との包括連携協定のもと、学園側から2名の担当専門教員を派遣いただくこととなりました。教科担任制に対するデメリットについてご指摘がありましたが、子どもたちを多くの教員によって見守ることが出来ること、子どもたちにとっても授業を通して様々な教員と接点を持つことができ、不安なことなど相談する教員の選択肢が増えるものと考えております。また、外国語教員を配置することは、グローバルな人材の育成と中学校での英語指導にスムーズに適応できるメリットもあります。

質問の1点目については、実際のところまだ事業が始まっておらず、田中学園の授業のスタイルなど、具体的な事が見えていないことから、まずは事業を進めながら、学園側から見た小学校の様子や子どもの様子などの意見を都度もらいながら参考にして、学校運営への反映を検討してまいりたいと考えております。

2点目についても、まずは事業がとどこおりなく進められることに傾注して、その後検討を行いたいと考えております。特に教員の人事交流につきましては、どの程度の交流をさすのか

わかりませんが、中央小の教員については道教委の職員ですので、単純に町の思いだけではむずかしいものと考えております。

３点目ですが、基本的に小学校に配属される教員は小学校の全科目を教えることが出来ることとなっており、実施予定である教科担任制については、各教員が教科をそれぞれ分担して担当することとしておりますので、人事異動があっても対応は可能と考えております。

児童も教員も教科担任制に１日も早く慣れていただき、都度子どもたちへの効果など見極めながら、学校としてさらに連携強化が必要と判断した時は、議員の質問の点も考慮させていただきながら、より深い田中学園との関係構築を検討してまいりたいと存じます。

一般質問（質問者順）

議席番号4番
小澤　一文議員

質問要旨
防災対策について

本町の備蓄に関する計画は、地域防災計画に包括的に記載されておりますが、より具体的で詳細な取り組みを明らかにするために備蓄整備計画を個別計画での策定が望ましいと考えます。個別計画としない主な理由をお示しください。

次にマイタイムライン作成推進についてお伺いします。

私たちは、この度の大震災から学び得ました。それは、近年の自然災害は、想定以上のことが起こり得るとの認識で防災対策に取り組まなければならないことです。

マイタイムラインとは、自らの避難行動の指標となるもので、非常時における被害の想定やどのような状況において、いつ・どこに避難するのかなど、自分自身が取る標準的な防災行動を時系列に整理した事前防災行動計画と言えます。

答弁要旨

はじめに災害時備蓄の考え方でございますが、災害対策基本法に定められているように、住民自らが災害に備え、非常食や生活必需品を予め確保していただくことを基本としつつ、これらを持ち出せなかった避難者のために必要な物資を地方自治体が補うものとして、本町においては東日本大震災が発生した平成23年以降、災害時に住民の生活を確保するために必要な食糧や飲料水、避難所に配備している発電機も含めた防災資機材など年次的に整備を進めているところであります。

本町の備蓄整備計画の関係につきましては、上砂川町地域防災計画においてその基本理念を定めつつ、数量や品目の基準については国の考え方や北海道の防災計画、非常用品チェックリストに基づき、毎年適宜整備・補充していること、また保管についても消費期限や数量を把握しながらローリングストックを実践するなど、適切な管理を行っていることから個別計画は策定しておりません。

備えの実践は、自助が確立してこそ共助・公助の取り組みが促進されるものでありますので、日頃から災害に備えた家庭内備蓄や事業所内備蓄、さらには各地区において地域内備蓄の考えを取り入れていただくなど、災害時に適切な対策を町民と行政が一体となって講じることができるよう、引き続き、備蓄に関する情報開示と必要性ついて周知啓発を図るとともに、国や道の考え方に準拠しながら、更なる寒さ対策や停電対策に視野を

おき、今後も適正な備蓄整備に努めてまいります。

次にマイタイムライン作成推進についてでございますが、「自らの身の安全は自ら守る」という観点から、災害時には各自の判断で適切な避難行動がとれるよう、基本的にはハザードマップや気象庁などの情報をもとに個々に作成するものでありますが、災害リスクや避難行動の把握、またハザードマップや各種防災情報の理解が必要となりますので、町が基本的な知識の提供を行うなど、各々のニーズに応じた作成支援を行うことは可能と考えております。また、作成にあたっては地域の特性を考慮するとともに、お互いが助け合うという共助の視点を取り入れることが重要であり、個人のタイムラインに地域の独自性を加えた行動計画が確立されることにより、一層、実用性の高い計画を作成することができます。

特に高齢者が多い本町にあっては、今後ますます共助の役割が必要とされますので、引き続き、地域との情報共有や自主防災組織の結成に向けた支援に行うほか、新たに配置が予定されている防災専門員を中心に地域防災力の強化に向けた取り組みを推進してまいります。

議席番号7番　吉川　洋議員

質問要旨

災害時における非常食、備蓄品の保管方法及び災害時の災害本部のあり方について

災害時の水等を含めた非常食、並びに備蓄品は地域住民の3割程度の量が理想とされていますが、本町の現状についてお聞かせ下さい。

またいち早く災害地域に届けるためには各地域への分散備蓄も方法と思いますが、分散備蓄についてどうお考えかお教え下さい。

災害時には役場庁舎が災害対策本部になると思いますが、町職員も被害に合うこともあると思いますので、大規模災害時の対策本部のあり方についてどの様に考えられているかお教え下さい。

答弁要旨

はじめに、本町における備蓄品の現在の状況、量、保管方法でございますが、被災人口を町の人口の約1割と想定し、避難所において最低3日間の避難生活ができることを目標に備蓄の整備を進めており、保管場所を役場に一元的な保管・管理を行っているところであります。

1点目のご質問、備蓄品の分散確保につきましては、災害時の状況に応じて重点的な配備が求められたり、適切な数量を振り分けしたりと臨機応変な配備が求められることから、本町のような行政面積が小さく、地域間が離れていない町にとっては、一定の場所から迅速に運搬できるというメリットがありますので、現時点においては一元的な保管・管理が望ましいと考えております。

しかしながら、現在、発電機を各町生活館に配備しているように、他の備蓄品についても分散管理を行う場合、例えば自主防災組織において、日頃の管理や動作点検のほか、毎年、補充と物資の有効活用が図られるということであれば、以前に答弁させていただきましたように保管スペースも含め各町自治会とご協議させていただきたいと考えております。

次に2点目のご質問、大規模地震等が起きた時の対策本部の在り方についてでありますが、大規模地震等によりライフライン、交通機関などに障害が発生した時には、想定した体制が整わない可能性もあります。

このため、災害対策本部の体制が確立するまでの間、一時的

に現有人員をもって柔軟に対応する緊急初動体制を構築しなければならず、具体的には、指揮命令については参集できた者のうち最上席の者が総括責任を担い、職員は各対策班に分かれることなく、優先的に行う業務として、二次災害の防止措置を含めた安全確認、情報収集・情報提供、消防や警察などの関係機関との連絡調整を行うともに、このような大規模災害時に備えて物資調達供給や救助救急活動等の支援協定を締結している事業者への協力要請、更には道や自衛隊への災害派遣要請の準備を整えるなど、あらゆる関係機関の力を集結して災害対策にあたらなければなりません。

このように行政だけでは対応しきれない甚大な被害に対しましては、議員ご明察のとおり、各自治会及び町民の皆さんのご協力が不可欠であり、今後も様々な形をとりながら住民の意識高揚を図るとともに、地域の支え合いが重要であることから、自治会単位での自主防災組織結成の働きかけと更なる関係機関との横断的な連携強化に努めてまいりますことを申し上げ、答弁といたします。

議席番号2番　藏根　高史議員

質問要旨

弓道場の利活用について

朝駒地区にあります弓道場は高齢化に伴う競技人口の減少により、日頃の十分な手入れがされないまま施設の老朽化がかなり目立つ状態となっております。

現在の管理体制では数年後には町内愛好者も消滅し、施設とともに希少な体験の機会や道具が無駄になってしまうことが懸念されます。この希少な財産を生かすためにも再度アピールを重ね、必要な施設補修をしたうえで、定期的に管理者を配置し、利用者増を図るべきと考えます。

また日本古来の武道として後世に伝承していく観点から小・中学校の課外活動の一環として利用してはどうかと考えますが、ご見解をお伺いいたします。

答弁要旨

現在の弓道場につきましては、昭和56年10月に建設され、本町の第3次行財政改革の際、施設廃止の方向とされましたものの、弓道連盟が管理するとの要望に沿う形で残し、現在に至っております。

現在、連盟は体育協会に加盟しており、会員数は11名で内訳は町内居住者が8名、町外居住者は3名であり、利用料は町内外問わず無料であります。

施設の利用状況ですが、利用者の高齢化に伴ってひと月あたり3名程度が数回練習に使用されている状況にとどまっておりますが、町の数少ない体育施設であり、経年による老朽化はございますものの、弓道連盟より不具合個所等の申し出があった際は、利用に支障のないよう都度修繕を施しており、また、冬期間は職員が定期的に建屋の積雪の状況等を確認しながら雪下ろし等を行い施設の保全に努めております。

議員ご質問の利用者増に向けた取組として、定期的な管理者の配置でございますが、先に述べましたとおり管理は連盟に委ねておりますが、利用状況を考慮し、費用対効果を検証したうえで配置について検討いたします。

また、小・中学校に通う子どもたちへの課外活動での利用について、連盟代表者へ意向を伺ったところ、中学生以上で希望者がいれば指導は可能であり、また、保管されている用具は、個人所有のものも含まれているものの、貸し出しはできることから相談願いたいとの回答を得ましたことから、教育委員会では普及促進の協力のため、中学校に対して投げかけを行い、総合学習などで学校からの要望が

あれば関係者にて協議をするなど対応してまいりたいと考えておりますことを申し上げ、答弁といたします。

行政常任委員会報告

○3月11日（月）に第1回定例会の行政常任委員会を開催しました。提出された町政執行方針・教育執行方針・主要事業についての調査と説明を求めました。各種新規事業・拡充事業の遂行状況等について活発に質疑が行われました。

その後、5月に実施される、町内の誘致企業の運営・管理状況など所管事務調査の内容の確認を行いました。

予算特別委員会報告

○3月14日（木）　**令和6年度予算特別委員会開催**

議案第12号（一般会計予算）、議案第13号（国民健康保険特別会計予算）、議案第14号（高齢者医療特別会計予算）、議案第15号（水道事業会計予算）、議案第16号（下水道事業会計予算）の審議が行われました。

熱心に審議をした結果、認定すべきものとして18日の本会議で採決、報告をしました。

（記　笹木　笑子）

町内行事参加報告

上砂川中学校卒業式に参加して

3月12日卒業式に出席を致しました。まだ肌寒い春待ち遠しい気候の中、15名の卒業生の皆さんが少し緊張した面持ちながら、しっかりと前を向き入場して来ました。

校長先生の挨拶の後、人ひとりに卒業証書が手渡されました。3年間の想い出とともに新しい環境への希望と緊張を心に刻んだ事と思います。

卒業生の夢あふれる素晴らしい未来で有ることを願う時間で有りました。

（記　吉川　洋）

（参加者）　高橋成和・吉川　洋
小澤一文・笹木笑子

上砂川中央小学校卒業式に参加して

3月19日卒業式に出席してきました。

初めて袖を通す中学校の制服を着て緊張しながら14名の卒業生が在校生・保護者の皆様やお世話になった先生の皆さんの拍手の中入場して来ました。

一年生の時には本当に小さく可愛かった児童が6年間で立派に成長した姿を見せてくれました。

我が子の時を思い出し、少しばかり目頭が熱くなる一瞬でした。

中学に上がり又、沢山の素晴らしい経験をして、又大きく成長をするよう、心から願います。

（記　吉川　洋）

（参加者）高橋成和・吉川　洋
小澤一文・笹木笑子

上砂川中央小学校入学式に出席して

4月8日の入学式に出席させていただきました。晴れやかな天候に負けないくらいの晴れやかな11名の新一年生の誕生でした。

担任の先生の先導で緊張しながらも堂々と入場し、名前を呼ばれると元気な声で「はい」と起立する姿がふと、かつての我が子や孫の姿に重なり、胸が熱くなりました。

「地域の人に会った時は元気に挨拶をしましょう」と校長先生のお話がありました。元気に挨拶を交わすことは、地域全体にやさしく、ぬくもりのある人間関係を織りなしていくことに繋がりますので、私達大人も応えたいものです。

これからの小学校生活が、健康で楽しい学びの日々でありますように願っています。

（記　笹木　笑子）

出席者（3名）
高橋成和・小澤一文・笹木笑子

上砂川中学校入学式に出席して

4月8日、上砂川中学校の入学式に出席させていただきました。式典は、春の日差しが暖かい、とても穏やかな気候の中、開催されました。

緊張の趣で14名の新入生は入場します。今日から一，〇〇〇日余の中学校生活が始まります。環境が大きく変われば、誰もが不安になるのは当然です。だだ、そこから自分自身の「目標」が、鮮明に見えてくるものがあるのではないでしょうか。

どうか、新入生の皆さんは、「認め合い、自ら考え、挑戦（トライ）し続ける」自発能動の行動で、スポーツに、勉学に励んでください。そして、栄光の未来へと続く大道を歩んでほしいと思います。

改めまして保護者の皆様、ご入学誠におめでとうございます。

（記　小澤　一文）

出席者（3名）
高橋成和・小澤一文・笹木笑子

【民間賃貸住宅調査報告】

3月15日（金）に行われた事前調査により、「ミ・ライブⅡ」アパートの魅力が明らかになりました。この新しいアパートは、先進のプラスチックサッシ低放射複層を採用しており、夏季の暑さから室内を効果的に守ります。そのため、入居者は快適な環境で生活できます。また、全室が明るく、十分な日当たりを確保しています。これにより、明るい空間でリラックスできます。さらに、アパート内には共同スペースとして物置が設置されており、入居者の利便性を高めています。冬季の雪対策も万全で、駐車場の除雪は定期的に行われます。これにより、雪かきの負担を心配することなく、安心して生活できます。以上の特長から、「ミ・ライブⅡ」は入居者にとって理想的な住環境を提供しております

【行政常任委員会所管事務調査】

5月13日（月）に町内進出企業の2企業を訪問視察しました。

1．「株式会社ロボットシステムズ」について

①社会課題になっている人手不足に対応する産業用ロボットシステムを北海道中心に提供する
②ロボットを扱える会社（Sier・仲間）を増やす
③若年層へ産業用ロボットに触れられる場を提供する

この3点をコンセプトに5年前に創業された覚張代表から「なぜロボットを使うのか？」説明を受けました。２０３０年の人手不足数は６４４万人とのことで、人手不足を解消するためには労働供給を増やすだけでは埋めることは難しく、生産性向上によって需要を減らすしかないという話や、難しい専門的なことも、実際にロボットによる作業を見て、分かりやすく関心の持てる伝え方で大変興味深く聞かせていただきました。近隣だけではなく、たくさんの子どもたちが社会見学先として訪れる日が来るのでは・・・と期待感が高まりました。

2．「マイクログラス（株）北海道工場」について

武藤化学株式会社は１９４６年設立され、本町においての北海道工場の操業は１９９０年からで、34年になります。

国内シエアの半数を占める顕微鏡用ガラスなどを開発・製造・販売、国内にとどまらず、海外でも展開、輸出が拡大しているとのことです。11月に工場も拡張とのことで、ますます伸張される期待の持てる優良企業であります。

従業員の7割は町外の方とのことです。あらためて、本町の住人になっていただく環境づくりに向けて考えていきたいと思いました。

どちらも、時代の最先端の技術を持って、社会課題に向き合い、使命感にむけた企業努力を感じる企業でした。本町にとっては、上砂川町を知ってもらえる、訪れてもらえるシンボル企業として、関係人口の増、町の経済活性化にも繋がることを期待します。

（記　笹木　笑子）

出席者　全議員

編集後記

地上の動植物が一斉に躍動をはじめる一年中で　もっとも過ごしやすい季節となりました。

穏やかなお正月を過ごせると思っていた矢先に、能登半島地震が発生、そして４月の台湾地震と自然災害の恐ろしさを今更ながら痛感させられました。尊い人命や財産を奪い、生々しい傷跡を残しました。不安や悲しみ、動揺は想像を絶するものであったでしょう。４か月たった今もまだまだ復興の途中です。一日も早い復旧・復興を願うばかりです。つらい体験を次の災害に生かし、少しでも悲しい思いをする人が少なくなりますように。助けが必要な人には、だれもがそっと手を指し伸べる共生の世界が広がりますように…とつくづく思います。同時に災害・防災対策の重要性も実感しました。

３月の定例議会の内容についてお届けしました。激しく変化する国内外の政治社会、経済情勢の中で地方の議会や自治体の役割はますます増大するものと思います。本町においても、今議会では令和６年度の町政執行方針並びに教育行政執行方針が提案され、各議員が町政に対し理事者の考えを聞きました。４月からは小学校での教科担任制、田中学園との包括連携がスタートし、「未来への投資」と決意を新たにしています。

豊かな芽が吹き、育つ未来になりますことを期待しつつ、子育て世代と子ども達に安心して本町に住んでもらうには、教育のみならず行政各分野のバランスの取れた町づくりが必要と考えます。住民の代表として監視、推進する必要があります。

私たち議員一同、残す任期も９か月余りとなりました。町民の皆さまには意に叶ったことでしょうか。残された任期を、議会の使命と理念に思いを致しながら、みなさんと共に進めてまいりたいと思います。

４月23日記（笹木　笑子）

議会広報誌の編集委員

・吉川　洋・伊藤　充章
・越前　等・小澤　一文
・笹木　笑子・藏根　高史
・石田　浩二

小学校入学式

中学校入学式

ロボットシステムズ視察

マイクログラス視察